



## 有珠復旧事務所

# 急務！国道230号の復旧に地域から大きな期待

### トンネル掘削工事も始まり、防災性の高いルートを新設



左から 荒野広復旧工事課長、浮田正防災対策課長



2000年3月31日、有珠山噴火。23年ぶりのこの噴火により周辺地域は多大な被害を受けました。その後、各方面で復旧作業が行われていますが、北海道開発局は2001年4月から室蘭開発建設部虻田道路維持事業所を「有珠復旧事務所」とし、国道230号の復旧工事は復旧工事課で行っています。また、維持管理・防災計画は防災対策課が行っており、復旧と維持管理という2本の柱を持つのが同事務所の特徴です。

こうした復旧事務所が設けられることは大変珍しく、九州の雲仙岳の災害で設けられた（雲仙復興工事事務所）のが最初で、今回はそれに続くものです。雲仙岳の場合も火山の噴火ということで共通する事項はありますが、復旧の方向性が異なるため残念ながらお手本になる部分は多くありません。有珠山によるダメージの復旧は、これまで積み重ねてきた知識や技術力を発揮して、職員や関係者の方たちがそれぞれ仕事にあたられています。



### 観光エリアの復旧は、地域経済の復旧 イザという時の救急搬送も重要なファクター

現在、9件の復旧工事を抱えています。中でも新トンネルの開通は地域住民にとって大きな意味を持つ工事です。虻田町市街地と洞爺湖温泉市街の間を結ぶ国道230号

は、観光産業や住民生活を支える広域幹線道路として利用され、北海道縦貫自動車道と国道37号を直結させる役割を果たしてきました。バス混入率も全道平均より高く観光地としての特色がはっきりと数字に現れています。この国道230号の代替路線として町道虻田ノットコ線・珍小島1号線が使用されていますが、地形条件が非常に厳しく最急勾配16%、最小曲線半径22mの急カーブが連続しています。車両がすれ違うには幅が狭い場所が多くあり、大型車の通行規制が行われているという状況です。観光資源の活用は地域経済の活性化に直接つながり、1日でも早く安全に観光客を輸送できる道路づくりが切望されるのうなずけます。

さらに現在は洞爺湖周辺地域には高次医療施設がないため、救急搬送の距離と時間を短縮することも住民生活にとって急がれる問題です。

復旧ルートは12人の専門家が選定委員会のメンバーと



なり、虻田町洞爺湖温泉町と同町清水間の約4.6Kmを2本のトンネルで結ぶ計画が選定されました。これにより虻田町洞爺湖温泉町と同町三豊間の三豊トンネル（仮称）と、同町三豊と同町清水間の青葉トンネル（仮称）が誕生します。火砕流や火砕サージ、噴石などが回避できる安全なエリアで、国道としての幹線性があることなどが選定時のポイントとなり、今年1月下旬から掘削工事が開始されています。

道路やトンネルを作る場合、調査や土地買収などは順々にステップを踏んで、ある程度の時間を見越して行われます。しかし、今回ばかりは事態が事態だけに「早さ」が大きなウエイトを占め、あらゆるプロセスが同時に進行しているという状態です。ご担当の荒野広復旧工事課長は「すべてのことが同時に動いているわけですし、非常に神経を使いますね。掘削するには水を使いますから、洞爺湖から取水する場合は北海道と協議し、汚水処理をした水を川に流すとなれば漁協さんにも話を通しておかなければなりません。国立公園内にありますから、木を1本切るにしてもいろいろ手続きが必要ですよ」と、ご苦労は絶えません。

また、地質的に重金属を含むことがわかり、山中に管理型土捨場を作り問題解決を図っています。残土は2重のシートにくるんでから埋め立て将来的にも不安の残らない方法を取り、住民の理解が得られるよう何度も説明会を実施

しました。

有珠山が再び噴火することは十分に考えられ、そうした事態を想定しトンネルは避難道路という位置づけもなされています。



三豊トンネルの洞爺湖側からおよそ100m入った地点には、一時避難場所となる広い空間も設けます。こうしたトンネルの作り方もあまり例がないということで、火山の専門家の助言を得て作ることにになりました。

## 町民ボランティアをサポートし、快適な道路環境を一緒に作る

「国道37号の長万部町静狩トンネルから伊達市長和。このほかに国道230号や大滝村方面の国道276号、何だかんだでトンネルが12カ所もあって、トンネルの数が多い受け持ち箇所ですよ。これから新しいのも2本できるわけですし（笑）」と話すのは維持管理を担当されている浮田正防災対策課長です。日頃のパトロールでもトンネル内の点検には特に気を使うといいます。泥流の発生も注意が必要で、雨が続きと隠れて見えない植物の下などもよく見るようにしています。砂防ダムの工事を行っている土木現場と情報交換し合って体制を強化し、大きな事故につながらないよう体制を強化。住民生活の安全確保につとめています。

冬の間の除雪は、海岸線沿いは降雪量が割りと少ないのに対し、峠や山間部がかなり降るため市街地に事務所があっても随時気象状況には注意を払います。新雪が降った場合の一次除雪はもちろん、拡幅除雪も行い雪によって道路が狭くならないような対応をしています。融雪剤散布によるつるつる路面の防止も冬の大切な仕事です。

最近、自分たちの住む街を自分たちの手できれいにしようという住民意識が各自自治体で高まっていますが、同事務所でも花の種を今年から住民にプレゼントすることにしました。花壇の整備などを行ってくれるボランティアについても、いろいろな面でサポートし一緒に汗を流しながら快適な道路環境を整えていくつもりです。「してもらおう」「してあげる」という価値観の壁を取り除きお互いが信頼関係を築くことで、使う人も管理する人も道路に対する愛着が深まっていくことでしょう。

最後に、地域の期待を担って復旧や維持管理につとめられている職員の方たちの印象を浮田課長にうかがってみると、「ヤンチャ坊主が多いかもしれませんね。多少のことではメゲず前向きですから、それがまとまることで大きな力となり活気ある職場の雰囲気を作っていると思います」と胸をはります。ポウリングや冬場はカーリングなどスポーツに親しむ職員も多く、仕事でも、プライベートでも皆さん充実した毎を送られているようでした。